

単元を通して歴史的事象のつながりを考察する力の育成
 —生徒が見いだした疑問を基に「問い」を設定し、単位時間ごとに解決する過程を通して—

研究構想図

長期研修員 春日 大

歴史的事象のつながりを考察することができる生徒

まとめる

MQとSQとのつながりについてのまとめ

単元全体を振り返り、SQの解相互のつながりをまとめる。



歴史的事象が
つながる。

SQの設定

※「SQ(サブ・クエスチョン)」(各単位時間の「問い」)
単元の構成時間に応じて設定

★「問い」の構造化★

単元のねらいに到達できるように問いの型(5W1H)を適宜組み合わせ設定する

問い	問いの型	例	単元のねらい
MQ	WHY型	なぜ〇〇なのか?	到達
問い	問いの型	例	単位時間のねらい
SQ3	WHAT型	〇〇は何か?	到達
SQ2	WHO型	誰が〇〇なのか?	到達
SQ1	HOW型	どのように〇〇なのか?	到達

単元を通じた「問い」の構造化

追究する

MQに基づいて、各単位時間ごとにSQを設定する。



事実を調べ、それを基に考察する。

MQの設定

※「MQ(メイン・クエスチョン)」
(単元のねらいに導くことのできる「問い」)

「疑問や驚き」のある資料を提示して、MQを設定する。



MQに導かれた課題解決学習へ。

つかむ

【教師の願い】

一つ一つの歴史的事象がどのようにつながっていくのか考えさせたい。

【国の課題】

課題解決の活動が十分に行われていない。

【生徒の意識】

歴史は覚えること中心。でも覚えたことがあまりつながらない。

「問い」の構造化

1 時間目	資料	「下関砲台占領の写真」
	問いの型	WHY型(なぜ)
	MQ	
2 時間目	資料	「黒船来航の絵」
	問いの型	WHY型・HOW型(なぜ・どのように)
	SQ1	なぜ、黒船が日本にやってきたのか。どのようなことが起きているのか。
3 時間目	資料	横浜の「開港前の絵」・「開港後の絵」
	問いの型	WHO型・HOW型(誰が・どのような)
	SQ2	
	MQとSQ2の関わり	開国によって、幕府以外の武士や、公家などから尊王攘夷論が高まったこと、物価上昇により、一般民衆の生活にも負担が多くなった。
4 時間目	資料	「大政奉還の絵」
	問いの型	WHY型 HOW型(なぜ・どのように)
	SQ3	なぜ、このような様子になっているのか。どのようなことが起きているのか。

単元のねらいに導くことのできる「問い」MQの設定

提示された資料を読み取る

読み取る視点を示し「なぜ」を生じさせる

MQ: **なぜ**、日本なのに**外国**(欧米)人に占領されているのか?



各単位時間の「問い」SQの設定

開港前の横浜の絵

比較

開港後の横浜の絵

SQ2: 開港したことで、**誰が**、**どのような**影響を受けたのか?

事実を調べる → 考察する
→ まとめる

比較・関連付け、
多面的・多角的な視点など



- 物価上昇が起き、民衆による打ちこわし、一揆などが起こった。開国した幕府への不満が高まった。
- 幕府側ではない武士の間で幕府の政策に反対する尊皇攘夷運動が高まった。
- 幕府は尊皇攘夷派を抑え権力を取り戻したい。

【生徒の記述】(一部抜粋)

単元のねらいへの到達

尊皇攘夷運動が盛んになったが、**欧米**に攻撃された薩摩藩・長州藩は攘夷の難しさを知ったので、**攘夷から倒幕へ**と一気に流れが変わった。

MQとSQとのつながりについてのまとめ

- ・学習内容の振り返り
- ・習得した知識の整理



- 小学校で学習したことをより深く知ることができた。開国は知っていたけど、開国までの出来事も知ることができた。江戸幕府滅亡までの流れも知ることができた。
- 小学校の時は、言葉だけ覚えているような感じだったけど、この授業で、「なぜそうなったか」などが分かった。

【生徒の記述】(一部抜粋)

○成果 と ●課題

- MQに基づいてSQを設定し、解決を図る学習過程を経たことは、歴史的事象のつながりを考察する上で有効であった。
- 前単位とのつながりをより意識できるように、既習内容や振り返りを更に生かして、単元の「問い」を設定していく。

提言

単元を通して歴史的事象のつながりを考察する学習を重ねることで、歴史の流れを捉える力が育まれると考えます。

つかむ

追究する

まとめる